

晋作をもっと知ろう! 高杉晋作年譜

初代内閣総理大臣 伊藤博文から
「動けば雷電の如く 発すれば風雨の如し」と評された高杉晋作。
激動の幕末期を駆け抜けた
英雄の生涯を振り返りながら、
晋作のふるさと「萩」のまちを
歩いてみませんか。

年号	できごと
天保10年(1839)	8月20日 長門国萩城下に生まれる
嘉永6年(1853)	明倫館小学部より大学部に入る
安政元年(1854)	2月 父小忠太に従い江戸行。黒船騒動を体験
安政4年(1857)	松下村塾に入り吉田松陰に師事
安政5年(1858)	7月 江戸遊学のため萩を発つ
万延元年(1860)	1月 長州藩士井上平右衛門の次女マサと結婚 8月28日 江戸より信州、北陸遊歴の旅に出る
文久元年(1861)	3月 藩主世子毛利定広の小姓役を命じられる
文久2年(1862)	4月27日 長崎から上海視察に出る。7月帰国 12月12日 品川御殿山英国公使館焼き打ち
文久3年(1863)	3月 10年の暇を請い、剃髪し東行と号す 6月 馬関防禦を任せられ奇兵隊を結成 10月1日 奥番頭に任せられ160石を給せられる
元治元年(1864)	3月29日 脱藩罪で萩野山獄に投ぜられる 8月 四カ国連合艦隊との講和に奔走 12月15日 藩政府打倒のため下関で拳兵
慶応元年(1865)	3月 馬関開港のため奔走するが挫折
慶応2年(1866)	6月17日 小倉口開戦。征長軍との戦いを指揮
慶応3年(1867)	4月13日 下関新地で病没。命日は14日

こゝまでやつたのだからこれからが大事ぢや。
しつかりやつて呉れろ。しつかりやつて呉れろ。
※最晩年、晋作を見舞いに訪れた同志に向かい言った

「まちあるき」のルール

- 所要時間は、歩く速度、観覧時間により個人差があります。
- 歩きやすい服装と靴で歩かれることをお勧めします。
- 車などに注意し、交通ルールを守って下さい。
- 観光施設以外の施設も含まれていますので、マナーを守って下さい。

ちょっと足[◎]をのばして…

ここへも行ってみよう!!



松下村塾 世界遺産
(吉田松陰幽囚ノ旧宅を含む)
吉田松陰が主宰した私塾。主に近所に住む者を門下生として受け入れ伊藤博文、久坂玄瑞など維新の原動力となる多くの逸材を輩出しました。晋作も安政4年(1857)に入塾しています。



安養寺
高杉晋作の母の実家大西家の菩提寺。晋作の祖父大西将曹(要人)は、藩政府で奥番頭の筆頭を務めるほどの実力者でした。晋作も母親に連れられ何度となくこのお寺に足を運んでいたことでしょうか。



春日神社
村田峰次郎著「高杉晋作」(大正3年)に、「高杉晋作の崇敬する所の産土神は、堀内の大馬場南詰にある春日神社なり」とあります。百日参り、7歳の誕生日の著袴式もここ春日神社で行ったと言われています。



歴史のまち 萩を探访

萩博物館で 晋作ゆかりの品を チェックしよう!



稽古胴と木刀
剣術の稽古に明け暮れ、武人になる日を夢見た晋作が少年時代に使用した。師は柳生新陰流の内藤作兵衛。木刀は晋作手製と伝えられる。



香炉

高杉晋作の上海みやげという。上海での日記(遊清五録)に「古玩店に至り鼎様香炉を求め」との記述があり、これが該当すると思われる。



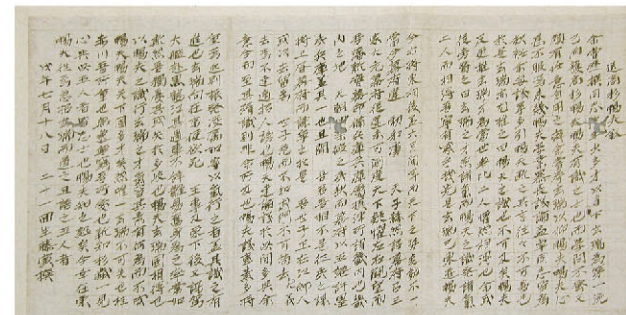
花瓶

高杉晋作の上海みやげという。



小書箱(いろは文庫納)

晋作が妻マサに贈った「いろは文庫」は「仮名手本忠臣蔵」を題材に、為永春水が著した。当時のベストセラー。箱の蓋の「正史実録 為永春水著 伊呂波文庫」の文字は晋作自筆。



送高杉暢夫叙(高杉暢夫を送るの叙)

安政5年7月18日、江戸遊学に旅立つ晋作に、松陰が激励の気持ちをこめて書き与えた。晋作の資質を見抜いた松陰は、久坂玄瑞と競わせることで、その才を伸ばさせたと述べる。

お問い合わせ

萩市観光課

〒758-0041 山口県萩市江向602 萩・明倫学舎3号館

☎0838-25-3139

2024年4月発行



萩まちあるきマップ

幕末の風雲児

高杉晋作

ゆかりの地を巡る!



晋作をもっと知ろう
高杉晋作年譜

激動の幕末期を駆け抜けた
晋作ゆかりの地を訪ねてみよう!

萩博物館で
晋作ゆかりの品をチェックしよう!

⑨女台場

文久3年(1863)5月、下関で攘夷が実行されると、萩を守るため武家の妻や庶民などあらゆる階級の者が藩命により菊ヶ浜に土塁を築きました。晋作は、妻マサに「土塁建設の工事には出るな」と戒めていたようです。



⑩北の総門



萩城三の丸は堀内と呼ばれ、重臣たちの屋敷が軒を並べていました。北の総門は、堀内に設けられた3つの門のうちの1つで、平成16年に復元されました。近くには晋作の上司にあたる繁沢家があったことから晋作もこの門をくぐって上司の宅へ行き来していたことでしょう。

⑪繁沢家長屋門



①萩博物館

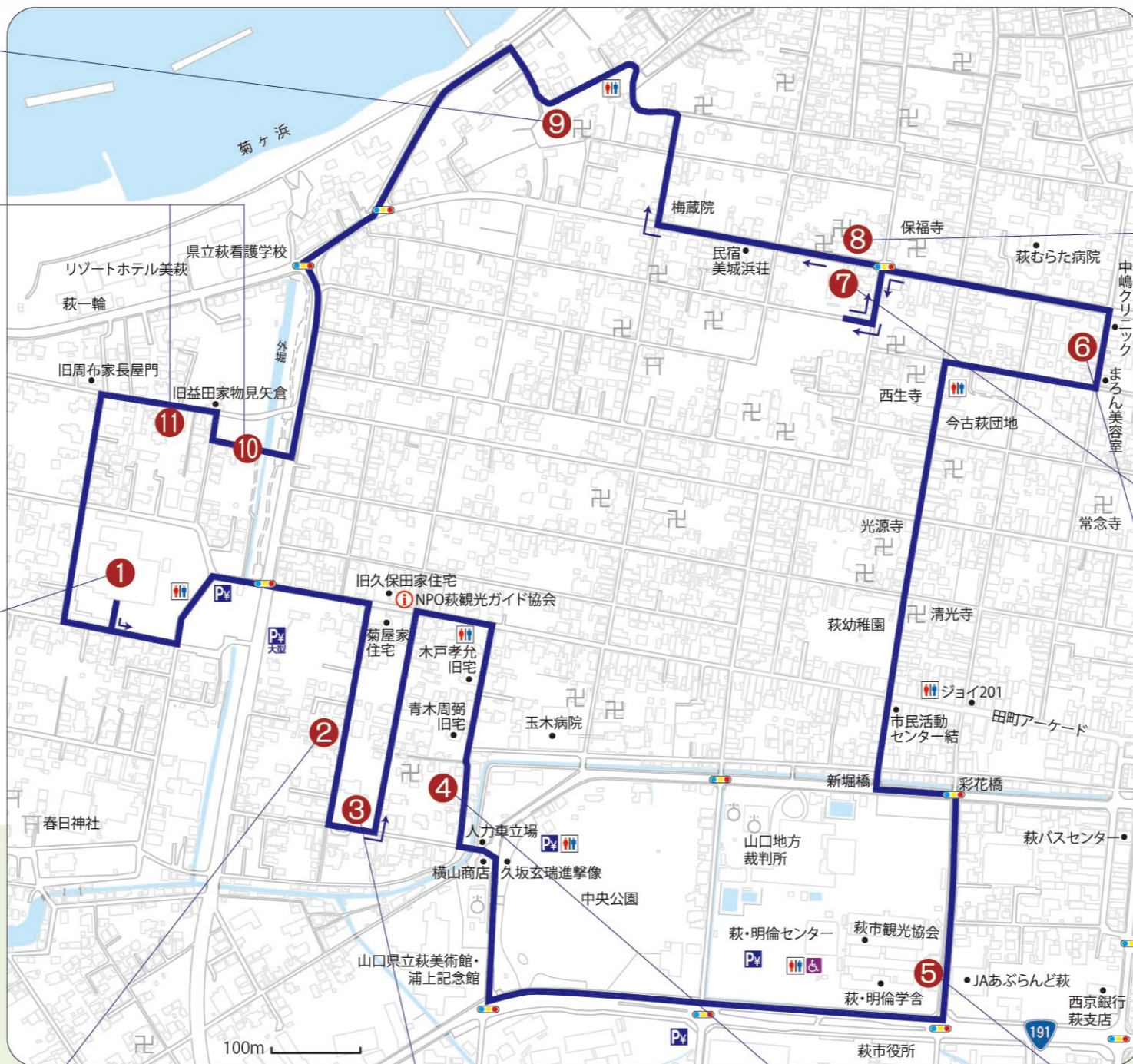
萩開府400年を記念して平成16年にオープン。少年時代の稽古帖から最晩年の書まで高杉晋作に関する資料も数多く展示していますので、まずはここで「萩」と「高杉晋作」の情報を入手し散策に出発しましょう。



【開館】9時~17時(入館は16時30分まで)
【休】1~3月第2週までの水曜日、1月第4水~金曜日、6月第2水~金曜日、年末年始(12月30日~1月1日)
【TEL】0838-25-6447
【料金】大人520円、高校・大学生310円、小・中学生100円



激動の幕末期を 駆け抜けた 晋作ゆかりの地を訪ねてみよう!!



②高杉晋作誕生地



萩城下の菊屋横町にあった高杉家。晋作は家禄 二百石の大組士 高杉小忠太の長男として天保10年(1839)8月20日に生まれました。産湯に使ったと伝えられる井戸や自作の句碑などがあります。

【開館】9時~17時 【休】不定休 【TEL】0838-22-3078
【料金】大人100円、高校生以下50円、小学生無料

③高杉晋作立志像



高杉晋作誕生地の斜め向かいにある晋作広場には、平成22年10月に「高杉晋作立志像」(江里敏明作)が建てられました。松下村塾に通っていた20歳頃をイメージしたまげ姿の像です。若き日の晋作と記念写真を取れば、晋作を身近に感じることができるとは思いませんか。

④金毘羅社 円政寺



晋作は小さい頃病弱でした。その為、母親はこのお寺を訪ね健康を祈願し、また拝殿(金毘羅社)の朱塗りの天狗の面を見せて晋作を勇気付けたと言われています。伊藤博文は、11歳の頃このお寺で雑役のかたわら読み書き算盤などを学んでいました。

【開館】8時~17時 【休】無休 【TEL】0838-22-3031
【料金】大人200円、中学生・高校生150円、小学生50円

コース 全行程/約5km
所要時間/約3時間

①萩博物館 → ②高杉晋作誕生地 → ③高杉晋作立志像 → ④円政寺 → ⑤有備館(明倫館跡) → ⑥野山獄跡 → ⑦海潮寺 → ⑧亨徳寺 → ⑨女台場 → ⑩北の総門 → ⑪繁沢家長屋門

⑧亨徳寺



高杉家の菩提寺。晋作の「誓御日誌」には、「鷹羽様(祖父又兵衛)の祥月命日なので、朝、亨徳寺の墓に参った」という記述もあり晋作も墓参りにきていた事が分かります。明治になり建てられた「高杉家祖先歴代墓」と刻む墓碑がありました。平成4年に下関市に移されました。当時の三門などが残ります。

⑦海潮寺

このお寺には藩校明倫館の孔子廟(聖廟)が移設されています。武士にとって孔子は神仏以上の存在で、晋作も万延元年(1860)11月廟司暫役となり、この建物の管理をしていました。また、墓地には長井雅楽などの墓もあります。



⑥野山獄跡



元治元年(1864)3月29日、京都進発を企てる過激派の説得に失敗した晋作は、ここ野山獄に投獄されました。投獄初日「先生を慕うてようやく野山獄」と詠んでいますが、師 吉田松陰も二度ばかり野山獄に投じられています。師匠も投じられた野山獄で晋作はどのようなことを考えていたのでしょうか。

⑤有備館(明倫館跡)

晋作は、萩藩校明倫館で柳生新陰流 内藤作兵衛に連日のように剣術稽古をつけてもらいました。明倫館の剣術場と槍術場である有備館は、藩士の練武のほか、他国からの修業者との試合の場でもありました。坂本龍馬も剣を振ったと言われています。

【開館】9時~16時40分
【休】2月第1火曜日及びその翌日
【料金】無料

